

日本の原子力（核燃料サイクル等）を巡る状況について

（座長報告）

平成 15 年 3 月 15 日

原子力委員会

市民参加懇談会

（印は青森県に関わる出来事）

- | | | |
|-------------|-----|---|
| 昭和 31 年 | 9 月 | 第 1 回原子力長期計画が発表され、これに基づき日本原子力研究所を中心に再処理の基礎的研究を開始 |
| 昭和 36 年 | 2 月 | 原子力長期計画で熱中性子炉次いで高速中性子増殖炉でのプルトニウム利用を記述 |
| 昭和 49 年 | 9 月 | 原子力船「むつ」出力上昇試験実施中に放射線漏れ |
| 昭和 51 年 | 6 月 | 日本が核不拡散条約（NPT）批准 |
| 昭和 52 年 | 9 月 | 日米再処理協議での合意を受け、動力炉・核燃料開発事業団の東海再処理工場で再処理開始 |
| 昭和 59 年 | 7 月 | 電気事業連合会が青森県および六ヶ所村に原子燃料サイクル 3 施設（ウラン濃縮工場、再処理施設、低レベル放射性廃棄物貯蔵施設）の立地申入れ |
| 昭和 60 年 | 4 月 | 全員協議会での決議（六ヶ所村：1 月、青森県：4 月）を経て、青森県知事、六ヶ所村長が電気事業連合会会長に原子燃料サイクル 3 施設の立地受入れを回答 |
| 平成 4 年 | 2 月 | 原子力船「むつ」4 回の実験航海を終了（平成 9 年 11 月に海洋地球研究船「みらい」として改造） |
| 平成 4 年 | 3 月 | 日本原燃産業株（当時） ウラン濃縮工場操業開始 |
| 平成 4 年 12 月 | | 日本原燃株 低レベル放射性廃棄物埋設センター操業開始 |
| 平成 5 年 | 1 月 | フランスから返還プルトニウム輸送船の「あかつき丸」が東海港に入港 |
| 平成 5 年 | 4 月 | 日本原燃株 再処理工場建設工事着工 |
| 平成 7 年 | 4 月 | フランスから返還高レベル放射性廃棄物輸送船の「パシフィック・ピンテール号」がむつ小川原港に初入港し、日本原燃株高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター操業開始 |
| 平成 7 年 | 8 月 | 原子力委員会 ATR（新型転換炉）実証炉建設計画中止を決定し、電源開発大間原発は全炉心 MOX（混合酸化物）燃料装荷可能な ABWR（改良型沸騰水型原子炉）に変更 |

- 平成 7年12月 高速増殖原型炉「もんじゅ」が40%出力試験中に2次系ナトリウム漏えい事故
- 平成 9年 1月 原子力委員会がプルサーマル、使用済燃料の管理、バックエンド対策、高速増殖炉の開発に関する考え方を示した「当面の核燃料サイクルの具体的な施策について」を決定し、2月に閣議了解
- 平成 9年 2月 電気事業連合会が電力11社のプルサーマル全体計画を発表
- 平成11年 9月 関西電力(株)がBNFL社製MOX燃料のデータ改ざんの疑いを公表(平成14年9月高浜発電所MOX燃料の英国BNFL社への輸送完了)
- 平成11年 9月 東海村の(株)JCOウラン加工工場が臨界事故(元東海事業所長らの判決公判が水戸地裁で開かれ、平成15年3月有罪判決。)
- 平成12年 6月 「特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律」公布
- 平成12年11月 むつ市が「リサイクル燃料備蓄センター」立地可能性調査を東京電力に依頼(同年12月に東京電力が調査実施を回答して現地調査を開始。平成14年4月中間報告を実施)
- 平成12年12月 日本原燃(株)再処理工場に使用済燃料本格搬入開始
- 平成13年 5月 柏崎刈羽発電所でのプルサーマル計画受入れの是非を問う刈羽村住民投票で賛成票：1533票、反対票：1925票で反対票が投票総数の53.40%(過半数)を占める
- 平成13年12月 日本原燃(株)再処理工場の燃料貯蔵プールの漏えい検知装置における出水確認を公表
- 平成14年 8月 原子力安全・保安院および東京電力(株)が1980年代後半から90年代にかけて自主点検作業記録などに虚偽の記載などが行われた疑いを公表
- 平成14年 9月 新潟県知事、柏崎市長、刈羽村村長による3者会談でプルサーマル計画事前了解の取消しを合意
- 平成14年 9月 福島県知事が県議会でプルサーマル計画は前提条件が消滅しており白紙撤回されたものとの認識を表明
- 平成14年12月 原子力発電環境整備機構(NUMO(平成12年10月設立))「高レベル放射性廃棄物の最終処分施設の設置可能性を調査する区域」を公募
- 平成15年 1月 高速増殖原型炉「もんじゅ」設置許可取消し行政訴訟で名古屋高等裁判所が無効判決

日本原燃(株)の使用済受入れ・貯蔵施設の
PWR燃料貯蔵プール水漏えいについて
(座長報告)

(プレス時期)	(プレス内容)
平成13年12月	PWR燃料貯蔵プール漏えい検知装置において検出している出水の原因調査を開始
平成14年 2月	調査の結果、PWR燃料貯蔵プール北壁部(西側)のプールライニングプレート部からの漏えいと判断
平成14年 6月	プール壁面の最下段横方向の溶接部に漏えい箇所があると判断
平成14年 9月	ライニングの一部を原因調査試験片として切り出し、社外研究施設で調査・分析した結果、貫通した欠陥が確認できなかったため、再度、漏えい箇所特定調査を開始
平成14年10月	PWR燃料貯蔵プールの全溶接部の再調査の結果、床面の溶接部(熱影響部を含む)に漏えい欠陥を確認
平成14年11月	床面の溶接部の漏えい欠陥箇所を切り出し、社外研究施設で調査・分析した結果、本来底部ライニングプレートが直接埋込金物と溶接されるべきところ、表面のみを溶接し、継ぎ足された部材があることを確認
平成14年12月	<ul style="list-style-type: none">・専門メーカー現場指導員の聞き取り調査で燃料仮置きピット壁面ライニングプレートにおいて計画外の溶接を行ったとの情報があった(その後の調査で(B)壁面にグラインダ痕が確認された(3月11日))・使用済燃料受入れ・貯蔵施設においてライニングプレート構造をもつ設備(14基)のプール水等に接する全ての部位、そして再処理施設本体においてライニングプレート構造を持つ貯槽(25基)の貯留する液体が接する全ての部位に対し、計画外の溶接部が存在しないか等の点検を開始
平成15年 2月	<ul style="list-style-type: none">・使用済燃料受入れ・貯蔵施設内燃料送出しピットの漏えい検知装置による出水を確認し、調査した結果、当該エリア東側壁面溶接部近傍1箇所からの漏えいと判断。・聞き取り調査では当該部で計画外の溶接等漏えいに繋がるような施工をおこなったとの情報は得られていない(3月11日現在、同様の状況)